

「^お上山城^ろ」からのたより春・第119号

上山に伝えられた、大塩平八郎の乱

(公財) 上山城郷土資料館学芸員 長南伸治

大塩平八郎の名は、学生時代に日本史の授業を受けた人であれば一度は耳にしたことがあるのではないだろうか？

大塩は天保八(一八三七)年二月十九日、飢えに苦しむ民の救うため、大坂で幕府を相手に反乱(大塩平八郎



丹波屋平兵衛書付(筆写物/上山城収蔵)

の乱)を起こした人物です。大塩の乱はわずか一日で鎮圧されてしまいましたが、日本の中枢都市を舞台に、かつ、元幕府役人(大塩は元大坂町奉行所与力)が首謀者となり起こされたものであったことから、幕府・諸藩は一樣に大きな衝撃を受けたと現在では評価されています。

さて、大坂から遠く離れた上山にも大塩の乱の情報は発生後まもなくもたらされています。情報提供者は大坂商人丹波屋平兵衛で、現在、上山城の収蔵庫には同人が乱発生後数日以内に上山藩に送付したと思われる計二通の書付(筆写物/配布するために筆写されたものと推測)が残されています。

それら書付には、大塩が五百人以上の人々と共に反乱の兵を挙げたこと、この乱で大坂の中心地は「残らず土」(焼失)と化したこと、町中に「鎧具足」を身につけた「死人」(大塩に味方した人々の死体)が横たわっていること等々、修羅場と化した大坂の町の様子が記されています。大塩平八郎の乱のみならず、上山藩が築いていた情報ネットワークを知るうえでも大変面白い資料といえるでしょう。

【常設展示室から】

「クイズ上山城探検」今年度も毎月開催決定。全問正解者には抽選で素敵な賞品があります。
図録『戊辰戦争と上山』(平成三十一年三月発行)、上山城受付にて好評販売中。ぜひお買い求めください。